

麻しん（はしか）患者の発生について（第3報）

4月22日（日）、名古屋市内の医療機関から名古屋市保健所に、「4月12日（木）に名古屋市が公表した麻しん患者と接触していた可能性のある受診者に、発熱等の症状がある」旨の情報提供があり、名古屋市衛生研究所が検体について遺伝子検査を実施したところ、23日（月）に2名麻しん陽性であることが判明しました。

その後、本市が患者の疫学調査を実施し、下記の内容を把握しました。

市内の医療機関及びその他施設において当該麻しん患者と接触した可能性のある方については、5月11日（金）まで名古屋市保健所等が健康観察を実施します。また、4月19日（木）に下記の公共交通機関を利用した方で、麻しんを疑う症状が現れた場合は、必ず事前に医療機関にご連絡の上、速やかに受診を促すところとなります。

1 患者の概要・行動等

	患者の概要・行動等	
患者	患者A	患者B
職業等	中学生	中学生
年・性別	10歳代 女性	10歳代 女性
接種歴	なし	なし
9(月)※	受診(医療機関A)	受診(医療機関A)
17(火)	通学	通学
18(水)	通学	通学
19(木)	通学 学習塾A利用 (18時～19時 地下鉄鶴舞線利用)	欠席
20(金)	受診(医療機関B)	受診(医療機関B)
21(土)	休日	休日
22(日)	受診(医療機関A)	受診(医療機関A)

※4月9日（月）の10時から13時に麻しん患者（12日公表の10歳代男性）は、医療機関Aを受診していました。

2 麻しん（はしか）について

- 4月11日、本市において麻しんの患者が発生（12日公表）以降、4月21日には、最初の患者と接触した可能性の高い患者が発症し、23日（月）に2件の発生が新たに確認されました。
- 今後、さらに麻しんが広がる可能性があるため、麻しんを疑う症状が現れた場合は、事前に医療機関に連絡し、麻しんを疑う旨を伝えた上、医療機関の指示に従い早急に受診していただくことが大切です。また、受診の際は、周囲に感染を拡げないよう公共交通機関の利用は避ける必要があります。
- 1歳（第1期）と小学校入学前年度（第2期）に、MRワクチンの定期予防接種を忘れずに実施することが肝要です。

1 症状等

感染すると約 10 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3 日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎が発症すると言われています。

2 感染経路

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強いと言われており、感染する時期は、発症の 1 日前から解熱後 3 日後までとされています。

免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

また、現在、1 歳（第 1 期）と小学校入学前年度（第 2 期）に、MR ワクチンの定期予防接種を実施しており、予防接種をしていれば感染するリスクは少なくなります。なお、本市では第 1 期では 99.3%、第 2 期では 93.3%の方が MR ワクチンを接種しています（平成 28 年度実績）。

3 潜伏期間

約 10 日～12 日間

4 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

5 麻しんの報告数

（1）過去 5 年の報告数（診断日で集計）

年次	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
名古屋市	1	20	0	1	1
愛知県(本市含む)	25	46	0	5	1
全国	229	462	35	165	189(速報値)

（2）沖縄県での発生状況

平成 30 年 3 月 20 日、沖縄県内で旅行客が麻しんと診断され、この旅行客と接触歴のあった者や同じ施設を利用した者を中心に、断続的に沖縄県内で麻しん患者の発生が続いております。4 月 23 日時点では 71 名の患者が沖縄県から報告されております。

6 留意事項

麻しんを疑う症状があった場合は、必ず受診前に医療機関に連絡し、麻しんを疑う旨を伝えた後、医療機関の指示に従い早急に受診してください。また、受診の際は、周囲に感染を拡げないよう公共交通機関の利用は避けてください。